

# 日本共産党青森県議会議員 安藤はるみの 新・アジサイだより



高橋千鶴子衆議院議員と共に新春の街頭宣伝と弘前市の新年互礼会に参加（1月3日）



とりの様  
希望を胸に  
羽ばたこう  
(はるみのワクワク川柳)

12月7日商工労働観  
光エネルギー委員会質  
問より

## 高校新卒者の離職 率何と49.5%

新規高校卒業者の離職状況等について質しました。「青森労働局調査によると平成25年3月卒業で雇用保険被保険者資格を取得した2261人のうち卒業後3年間に離職した者は1119人で離職



弘前市議団と共に新春の訴え（1月4日）

率49.5%であった」と答弁。さらにその理由について質すと「県が行った県内企業500社の若年労働者を対象にした調査によれば、退職を考えたことがある人が325人で、その理由として一番多かったのは、「賃金が低い。」だった。若年層の離職の原因は、賃金を含む労働条件、待遇、企業側の要因、そして働く側の職業意識による」と答弁。若者が青森県に定着できるよう労働環境整備に企業と連携し、全力を尽くすよう求めました。

## 温泉熱発電の可能性調査すむ

「県では、今年度から経済産業省の補助金を使って70度以上の高温温泉がある浅虫温泉、佐倉温泉、沖浦温泉、大鰐温泉、あいのり温泉の5カ所で可能性調査を行っている」と答弁。温泉熱発電の仕組みについても質しました。



## 2018年に期限を迎える日米原子力協定は終結を

30年の期限を迎える日米原子力協定と余剰プルトニウムについて質しました。原子力立地対策課長は「現在国内外で48トンのプルトニウムを保有しているが、原発で16基から18基プルトニウムを導入することで余剰プルトニウムを持たないという国の方針が達成される。」としました。しかし、「プルトニウムは進展しておらずプルトニウムを保有することで世界から、核兵器転換への疑惑がもたれているのが現状だ」と主張。エネルギー総合対策局長は「日米原子力協定はウラン、プルトニウムを軍事目的に使わないと宣言した基盤であり、引き続き必要不可欠なもの」という認識を示しました。

## ほっとタイム プレゼント

昨年クリスマススの日思わぬプレゼントが舞い込みました。3男の嫁から「先ほど、お昼の0時59分に30489で産まれました。」と我子の出産1時間半後に、次女となるはやの赤ん坊の写真と一緒にスマホのラインで報告が入りました。遠く離れた所から瞬時に産まれたの赤ちゃんの写真が見られるなんて時代の変化を感じる一瞬でした。私たちにとって6人目の孫誕生の報告はホットなプレゼントになりました。



新年に入って長男と4男一家がやってきて、近くに住む二男夫婦も加わり4人の孫たちを含め総勢12人で食卓を囲みました。元旦は私の65回目の誕生日でしたのでケーキも用意してくれていて、ロウソクの火は2歳になった晴汰君と一緒に消してくれました。マフラーやレンジで炊ける炊飯器、花器など心温まるプレゼントもいただき幸せなひと時でした。

雪遊びを楽しみにしてきた孫たちは何とか大きな雪だるまを作り、公園ではそり遊びも満喫して、帰って行きました。

この子たちが大きくなった時に、野党連合政権が着実に進展し、立憲主義が取り戻され、一人一人が個人として尊重される社会が築かれているよう、いろいろな困難を乗り越えながら頑張っていこうと思います。こういう時代を作ることが何よりの次の世代へのプレゼントですよね。



■皆さんの「ご意見」・「ご要望」をお寄せ下さい。■「生活相談」お気軽にご連絡下さい。12月の相談対応5件。

発行：安藤はるみ

事務所 弘前市宮川2丁目3-2 電話0172-35-7021  
10:00~15:00(土・日・祝日休み 留守電対応)

自宅0172-35-2270

Eメール ando.harumi@theia.ocn.ne.jp ホームページアドレス http://ando-harumi.com/

12月のホームページアクセス数  
27,454件